

## 2010年度Vol.1特集「学力下位層を伸ばす3か年のストーリー」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*『VIEW21』中学版のバックナンバーは「Benesse教育研究開発センター」ウェブサイト(<http://benesse.jp/berd/>)でご覧いただけます。

◎自己肯定感が高い子どもは学ぶ意欲も高いと、私も考えます。天理市立北中学校の、3年間を通してその心を育み、小学校のつまづきを克服する取り組みを、興味を持って読みました。 [長崎県/K中学校/O・S]

◎自己肯定感が身に付いていないのは本校も同様です。3年間の指導の流れが学年ごとに明確にされている天理市立北中学校の取り組みが参考になりました。 [宮城県/F中学校/C・S]

◎学習方法が身に付いていない生徒が、最近増えている印象を受けます。学びのルールや、学校のシステム、勉強の仕方、家庭学習の仕方等、基本的なことの指導が今こそ必要で、舞鶴市立青葉中学校が共に高まり合う学級づくり、学校づくりに取り組んでいることに共感しました。 [滋賀県/T中学校/Y・H]

◎舞鶴市立青葉中学校が目指す「生徒自らの力で学びに前向きな人間関係を築く」ことは、一人っ子の多いこれからの世の中での、良いモデルになります。キーワードは「協働」「自立」「自律」でしょうか。 [沖縄県/C中学校/U・T]

◎中学1年生のクラス編成をする際、尼崎市立園田中学校が行っているような入学前算数テストは、生徒の実態を探る手がかりにもなるし、良い取り組みだと思いました。 [富山県/F中学校/O・M]

◎宮城県黒川高校の記事からは、高校における学力向上の切実な問題が伝わってきました。先生方が真剣に取り組んできたことが実感できます。 [群馬県/O中学校/T・A]

◎学力下位層を伸ばす一つの方策は、「学び合い」であると考えます。どの学校も、名称は違うにせよ、そうした手立てを取っているのが印象的でした。その中でも熊本市立白川中学校の「対話する力」をベースにした取り組みは興味深く読みました。

[三重県/M中学校/M・K]

◎本校がある町には学力向上検討会があり、小中高で取り組んでいます。新藤全日中会長のインタビューの中でも、「補充」から、「共に学びに向かう集団」へと発想を転換しなければいけないという部分に共感できました。本校でどう進めていこうと考えるか考えさせられました。

[北海道/S中学校/S・A]

◎今回取り上げられた事例が、いずれも中規模以上であったのが残念でした。ぜひ、小規模校の取り組みについても知りたいです。 [広島県/K中学校/O・K]

◎放課後の学習サポート等は、現在の教員数では難しい学校も多いのではないのでしょうか。本校も特別支援が必要な生徒が複数おり、条件は厳しいです。記事をもとめる際にはそういう視点もぜひ入れてほしいです。

[北海道/H中学校/N・M]

◎特集の実践がそれぞれ学校の実態に合わせてあり、個性的。飾られていない真の姿が見えました。今回は特に良いと思いました。 [長崎県/K中学校/H・H]

◎学力の全体的向上は、案外、学力上位層を更に伸ばすことによって生じるクラス全体のグループ・ダイナミクスもあると考えます。その辺りに焦点を当てても良かったと思います。 [島根県/M中学校/T・Y]

## 編集後記

今号の取材では、事例校の授業の様子を拝見させていただきました。学校により授業づくりのコンセプトは異なりますが、大江先生が指摘された「専門的知識」と「集団経営力」の両立に、どの先生も心を砕いておられました。眠そうな生徒をすぐに見つけて声を掛けたり、生徒が「分かった」と思えるまで何度も説明を繰り返したり…。生徒との信頼関係が、日々の地道な実践の中で培われていることを改めて感じました。(渡邊)

VIEW21 中学版 2010 Vol.2

2010年9月1日発行/通巻第306号

発行人 新井健一  
編集人 原 茂  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
Benesse教育研究開発センター

印刷製本 大日本印刷(株)  
編集協力 (有)ペンダコ  
執筆協力 柴崎朋美、長谷川 敦、中丸 満  
山口慎治

撮影協力 荒川 潤、川上一生、ヤマグチイッキ

## ◎お問い合わせ先

VIEW21編集部

電話 03-5371-1238

〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2  
東京オペラシティタワー 22階

©Benesse Corporation 2010